



魚津市立 村木小学校

校 長：四月朔日 秀典

指導教諭：上田 茂子

発表児童：6年生(8名)



本校は、魚津市の商店街の中心部に位置し、来年創校100周年を迎える伝統ある学校である。児童数146名で、たくましい実践力をもった子どもの育成を目指した教育を進めている。

校区には、寺社や商業、漁業などにちなむ遺跡や伝統文化が数多く残っており、子どもたちは、たてもん祭りや蝶六踊りなどの伝統行事に進んで参加している。また、地域の人々と協力し、鴨川清掃などのボランティア活動に意欲的に参加している。

発表テーマ

鴨川を探る ～鴨川的环境を考えよう～

毎年、鴨川にサケの稚魚の放流を行い、サケが戻ってくることを願っています。鴨川的环境について考え、その水について調査し、取り組んだことを発表します。

上田 茂子 先生より

鴨川的环境について考え、自分たちができることを考え実践しようとする子どもたち

子どもたちは、サケが戻ってくる鴨川にしたいという願いから、鴨川について調査活動をしました。片貝川の上流の水質の観察、洞杉に象徴される片貝の豊かな自然、張先生の講義から学んだ水の循環、豊かでおいしい地下水の恩恵、生活排水の汚れなど水的环境は、自然や私たちの生活と密接につながっていることを学びました。また、これらの学習を通して、自然を大切に生きてこられた方々との触れ合いも貴重な経験となりました。

このような学習を生かし、子どもたちは、自分たちができるとして、清掃活動の継続と美化意識を高めるための活動に取り組みました。そして、環境について真剣に考え、できることを実践していくことの大切さを学ぶことができました。



考えたこと! 感じたこと!

サケが戻ってくる川に

石井 歩実 (6年生)

鴨川の上流の片貝川と鴨川で、水生生物や水質を調べて比べてみると、鴨川の水はやっぱり汚れていました。水生生物の調査は今まで知らなかったいろいろな生物を観察できてとても楽しかったです。鴨川清掃などにみんなで参加して、鴨川を大切にしながらサケも人間も一緒に暮らしていけたらいいなあと思いました。

自然のつながりを大切にしよう

上里 ともよ (6年生)

鴨川の途中から湧き水が出ています。村木地区には、地下水を使っている家が多く、生活に役に立つ大切な水なのだと思います。そして、この地下水は、豊かな森林によって作り出されることが分かりました。きれいな水を守るためには、森林など自然をもっと大切にしていかなければならないと思いました。



▲鴨川の源流である片貝川の水生生物や水質を調査しました。



▲鴨川の水生生物を採取して調べました。



▲片貝の洞杉を見学。きれいな水は豊かな森から作られる。



▲自分たちも森づくりに参加しよう! ブナの木を植樹しました。



▲毎月取り組んでいる鴨川清掃。地域の人々と協力しています。



▲調べた結果を写真、表、グラフにまとめて発表しました。

学習テーマの設定

サケの飼育と放流に取り組む魚津市内の小学校13校では毎年サケの卵をふ化して、大切に育てた稚魚を川へ放流しています。



カムバックサーモン!
私たちは3月上旬に「カムバックサーモン」を合言葉に、サケがもどって来るようお願いしながら、鴨川に放流しました。

学習の展開

もう鴨川を汚さないためにサケがもどるのはどんな川か? 鴨川をさかのぼり調べると、源流の片貝川の水質はきれいでしたが、生活排水などのためか鴨川は少し汚れています。そこで地域の人にチラシを配り汚さないよう呼びかけました。



昔も今も大切な地下水
鴨川の途中に「てんこ水」と呼ばれる地下水がわいています。夏は冷たく、冬はあたたかく、おいしい地下水は、今も村木小生徒の約30%の家庭で使われ、地域の人にとっては大切な水です。

森と水がつくるきれいな川
水と環境についてもっと調べようと「水と緑の課外授業」で、樹齢500年の洞杉見学、ブナの植林などを行いました。富山大学の張先生からは、サケがもどるきれいな川は豊かな森と水できると教わりました。



地域の人たちと協力する
地域の人たちの鴨川清掃に私たちも参加しました。ゴミの量を調べると、また増えているのが残念でした。鴨川をきれいにするため私たちにできることに、これからは取り組み続けていこうと思いました。

サケがもどって来た!

うれしいできごともありました。10~11月までの間に鴨川に25匹のサケがもどったことが確認されたのです。これからも一人一人が川を汚さないよう気をつけて、地域の人とも協力していこうと思います。

